

首都圏増田会だより

35

2020.6



方言は おらほの宝 増田会

収穫を待つ真っ赤なりんご(亀田地内 11月)

「生涯元気に」首都圏増田会



横手市議会議員

山形 健二（上町出身）

首都圏増田会の皆様、昨年も総会へご招待いただきありがとうございました。市議会議員として、初めて来賓の祝辞をしたのが首都圏増田会であります。前もって声がかかるものだと思っておりましたから、一緒に出席していた先輩議員が二人とも登壇し、自分の出番があることに気づいた時には、自分の心臓の音がバクバクとはつきり聞こえてくるほどに緊張いたしました。あれは一生忘れられない思い出となりました。あの時は、まともな挨拶もできずに、来年は若い人を連れてきます！と意気込みだけを語らせていただきました。大変失礼いたしました。翌年には会場の入り口で「若い人、ちゃんと連れてくるか見に来たよ。」と声をかけてくれる方がいらっしゃいました。

た。有言実行。若者を連れてこられました。しかし、誰も連れていけなかったことを考えると恐ろしくなりました。快く参加してくれ、同級生、先輩、後輩には感謝できありません。そして、何もわからずに不安な友人たちに声をかけてくださり、役員にまで引き込んでくださった大先輩方、ありがとうございました。若手が新たな人をよび、先輩方が囲い込む。この作戦で首都圏増田会は安泰ではないでしょうか（笑）。

思った。どんな人たちがいるのか分からなくて不安だった。新たな人の参加には、それが課題かと思っております。そして、それをこれから解決していくのが新たなメンバーなのでしょう。日本も秋田も高齢化が進んでおります。首都圏増田会もそうだと思います。自論ですが、高齢化は高齢者が元気で現役であれば、なにも問題はありませんか。逆に日本は活性化するのはないでしょうか。若い人が入ってきたから引退するのではなく、先輩方には「生涯元気に首都圏増田会！」の精神で、これからも我々世代にご指導ご鞭撻を戴けるようお願い致します。また次回の首都圏増田会総会でお会いできることを楽しみにしております。

新役員の声

温故知新の精神で 頑張ります

長尾 めぐみ

【八木出身】



この度、新役員として首都圏増田会の活動に参加させていただきます。長尾めぐみと申します。

高校を卒業後、進学を機に上京し、いづつか関東での生活のながくなつてしまいましたが、好きな地元増田町にこのような形でかかわることができ、とても光栄に思っております。二〇一九年は新役員として、横手市の他の二つのふるさと会の総会にも参加させていただき、それぞれの会にその町のカラーがあり、盛り上がりも様々でした。

私がどのふるさと会でも同じように感じたのは、温かさと安心感のような、ほっとする気持ちでした。東京のど真ん中で、秋田のふるさとの温もりを感じることでできるふるさと会は、特別なものがあります。温故知新の精神で首都圏増田会を盛り上げ、方言も大事に、総会では皆様にたくさん笑顔になっていただけるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

年を重ねるごとに 増田を考える

石川 真嗣

【本町出身】



この度、縁あって首都圏増田会の役員をさせていただくことになった、石川真嗣と申します。実は生まれ

は埼玉県で、三歳のときに父親の故郷である増田町に家族で越しました。以来、十八歳までを、本町の警察署の近くの実家で過ごし、上京して今年で十七年になります。

「ふるさととは遠きにありて思うもの」という室生犀星の詩がありますが、年を重ねるごとに、増田の情景を思い出す機会、増田の事を考える機会が増えていくように思います。街角で増田「らしい」ものを見つけると、それが増田のものかどうかを確認してみたり、ほかの地域の蔵の町なみがテレビや雑誌に出てくると、増田のそれと比較してみたりと、少しずつ私のアイデンティティに占める「増田町出身者」の割合が大きくなっているのを感じます。首都圏増田会という場を通して、自分自身が、増田や、そこにゆかりのある方々から、「増田イズム」を吸収すると同時に、故郷増田の良さを少しでも周囲に発信していけたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

客でにぎわう増田

山中 葉月

【中町出身】



た！）影響力は、増田を活気づける起爆剤になってくれました。ゴールデンウィークには、まるでお祭りでもあるかの様に観光客で賑わっている光景には驚きを隠せません。

私にとつて増田はただ漠然と帰る場所であるだけのものではなし、住んでいる時は、増田のリングジュースも豆腐カステラも特別美味しいと思っていなかった。むしろ甘すぎて嫌だった。好き好んで食さなかった。東京に出て数年、近所のスーパーで、ある日増田のリングジュースや秋田の名産フェアをやっていたのを発見し、思わず買いたててしまいました。上京しなきやあ増田の名産の美味しさに気づけなかったと思います。地元にいるままじゃ気付けなかったことでも、もしかしたら嫌いなままだったかも知れない。離れてみないとわからない地元の、増田の魅力、今回繋がった輪やこれから繋がる輪をどんどん広げて発信していきたいと思っております。

鬼は外 福は内



2月3日、ますだ保育園で節分行事が行われました。園長から節分についてのお話を聞いた後、突然赤鬼が登場すると園児たちは大慌てで、鬼に向かって豆を投げ始めました。中には泣きながら先生の後ろに隠れる子もいましたが、悪いことはしないと鬼と約束し、最後は鬼と一緒に踊ったり記念撮影をしました。園児たちの心の中にある「泣き虫鬼」や「好き嫌い鬼」などは、きっと逃げ出したことでしょう。

徘徊見守り訓練



1月15日、徘徊見守り訓練が多目的研修センターで開催されました。認知症や、認知症の方へのかわり方など劇を通じて学びました。その後、グループごとに家族が認知症になった場合の接し方、地域で認知症の方に出会った場合の接し方などを話し合いました。参加者からは、あたたかみのある話し口調も大切、思いやりをもって人に接したいなどの感想もあり、認知症の方への理解を深めることができました。

増田小卒校卒業式



3月17日、増田小学校卒業証書授与式が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、卒業生と教師だけの卒業式となりました。我が子の晴れ姿を見ることが出来ない保護者の皆さんが玄関前で出迎えているという異様な光景でしたが、子どもたちが玄関から出てくると、抱き合ったり記念写真を撮ったりと親子がふれあう光景を見ることが出来ました。コロナに負けず、たくましく成長してください。

冬季防災訓練



2月2日、狙半内地区で冬季防災訓練が行われ、多くの地域住民が訓練に参加しました。早朝に大型地震が発生したと想定した訓練で、まず住民が各集落会館に避難し、その後避難所である狙半内地区交流センターに市のバスで避難しました。避難所では、段ボールで自分たちの避難スペースを設置するなどの体験をしました。実際の災害を想定して電気や暖房を止めた非常に寒い中での体験でしたが、参加住民は万が一に備え真剣に活動していました。

りんごまつり



10月20日、真人公園でりんごまつりが開催されました。りんごの即売会や豚汁のふるまいなどに多くの人が列をなしました。恒例のミスりんごコンテストには、9人が出場し審査員の質問に笑顔で丁寧に答えていました。りんご皮むき競争やクイズなども行われ、楽しい秋晴れの1日となりました。

自分の道を進もう



11月26日、増田中学校で夢講座が行われ、書道家・書芸家の平野壮弦さんに公演していただきました。人のまねをすることも良いが、多少回り道をしたとしても自分の道を進むことが大切で、叶わなくてもそこに向かっていくことに意義があることなどをお話しされました。子どもたちは、自分の将来のことを考えながら真剣に耳を傾けていました。講演後には、大きな紙に大筆で「夢」「道」という文字を書いていただきました。子どもたちには、夢に向かって自分で道を切り拓いてもらいたいです。

増田町の出来事

～ 令和元年度に行われた行事を紹介 ～

来館10万人達成



9月23日、横手市増田まんが美術館の来館者が、5月1日のリニューアルオープン以降10万人を突破しました。岩手県からお越しの親子が10万人目となり、複製原画や年間パスポートなどが送られました。「ここは漫画の蔵書が多く、夢のある場所です」と大喜びの様子でした。

2019増田「蔵の日」



10月6日、2019増田「蔵の日」が2年ぶりに開催されました。台風の影響で2日前から当日の朝まで雨が降る状況でしたが、開催中は天気にも恵まれ多くの観光客で賑わいました。伝統的建造物等26棟が公開され、観光客からは「素晴らしい」との感想もいただきました。また、増田中学校全校生徒がボランティア参加し、まちなみや家屋の説明をするなど、おもてなしをしました。

体を動かし健康維持



5月29日、全国一斉チャレンジデーが行われました。市町村対抗で、1日に運動した人の割合を競うものです。今年は香川県丸亀市と対戦し、昨年に引き続き勝利を納めました。増田地域でも集落ごとにラジオ体操をしたり、地元企業や小中学校、保育園などで運動タイムを設けるなど頑張りました。

エンジョイ!!マンガロード



8月2日、浅水小学校（宮城県登米市中田町）と増田小学校の児童が交流を行いました。矢口高雄先生と石ノ森章太郎先生（仮面ライダーなど）の出身地の児童たちがマンガを通して交流するものです。今回は、増田の児童が中田町へ行きカヌーやバーベキューなどで交流をしました。冬は浅水の児童が増田に来てスキーなどで交流をしました。

Mt.Matoバンドフェス



5月5日、真人公園広場を会場に、Mt.Matoバンドフェスが開催されました。今年で2回目となる野外ライブは5組のバンドが出演し熱唱しました。自分たちで作詞作曲したオリジナルの曲や、みんなが知っている有名な曲など、ロックからバラードまで様々なジャンルの曲が披露されました。好天にも恵まれ熱い歌声と演奏に会場は大いに盛り上がりしました。

りんごの歴史を知る



5月11日、りんごの歴史探訪が20人の参加で行われました。これは、亀田地区交流センター運営協議会が主催したものです。秋田県果樹試験場で栽培技術などを、JAフルーツセンターで出荷について学びました。増田りんごの開拓者である藤原利三郎翁の頌徳碑を見ながら、先人の偉大さを教わりました。りんごの歴史を知ること、りんごをもっと好きになり、増田りんごが発展していくことを期待します。

農業体験交流 一粒の米からごはんになるまで

春から秋にかけて、増田高校農業科
学科と増田小学校の農業体験交流会が
行われました。高校生や地域の方が指
導者となり、五年生の児童に米の作り
方を教えました。児童たちは春の種ま
きや田植え、夏の生育状況調査を経て、
秋に稲刈りを行い約三百キロの米を無
事に収穫できました。

収穫した米は、増田高校総合学科の
生徒が考案した地元の食材を使用した
おかずと一緒に、みんなで食べました。
児童たちは、米作りの大変さや楽しさ、
食の大切さなどを知ることができ、自
分たちで育てた米を「おいしい」と言
いながら食べていました。



- ① 種まき (4月23日)
- ② 田植え (5月28日)
- ③ 生育調査 (7月1日)
- ④ 稲刈り (9月27日)
- ⑤ 杭い掛け (9月27日)
- ⑥ 勉強会 (11月19日)
- ⑦ 食事会 (1月19日)

“増田の子” 元気いっぱい頑張っています！



第34回 首都圏増田会総会・交流会

元号が令和になり初めて開催され
た「第三十四回首都圏増田会総会・
交流会」が、令和元年十一月十七日
(十一月の第三日曜日) に東上野の
オーラムで開催されました。会員、
ご来賓、横手市からのふるさと交流
者など百名を超える方々に出席して
いただき、大いに賑わいました。

総会後には、アトラクションとし
て松岡敏子さん、三谷夏香さんによ
る琴の演奏、伊藤正子さんによる詩

吟を楽しみました。交流会では「い
ものこ汁」「ぼだっこおにぎり」「日
の丸のお酒」など、ふるさとの味を
堪能しました。会が進むにつれて秋
田弁も聞こえてきました。

昨年から加入した若い役員の皆さ
んの頑張りのもあり、準備の段階から
総会当日までスムーズに進めること
ができました。恒例のビンゴ大会も
参加者みんなで大いに盛り上がりま
した。



お願い 一連絡一

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては、増田会として、やむをえず次のようにしました。

過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止することにしました。ただし、総会への参加は構いませんので、一人でも多くの方々の参加を期待しています。

皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

令和元年度首都圏増田会収支報告

令和元年11月17日現在

首都圏増田会の令和元年度の収支決算がまわりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※【比較】欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	備 考
会 費	274,940	▲75,060	2,000円/年(手数料差引後)
総 会 会 費	546,000	▲174,000	68人
補 助 金	270,000	0	横手市より
繰 越 金	603,317	0	
預 金 利 子	2	▲8	
諸 収 入	385,000	85,000	総会祝儀(330,000円) 広告収入(55,000円)
収 入 合 計	2,079,259	▲164,068	

【支出の部】			
項 目	金額(円)	比 較	備 考
総 会 費	1,153,781	▲46,219	会場費、宴会費用他
会 議 費	199,732	▲268	役員会 3回
渉 外 費	121,000	▲79,000	横手市ふるさと会連合協議会 ほか
慶 弔 費	10,000	▲20,000	
広 告 費	61,000	▲19,000	増田の花火協賛金(50,000円) 役員名刺代5人(11,000円)
通 信 費	53,240	▲46,760	増田会だより送料ほか
事業部活動費	10,000	▲40,000	広報部
手 数 料	6,048	1,548	送金手数料
事 務 費	12,274	▲7,726	事務消耗品ほか 役員会案内切手、はがき代
総会準備費	0	▲300,000	
予 備 費	0	▲58,827	
支 出 合 計	1,627,075	▲616,252	

収支差引残金 452,184円は翌年度へ繰越

令和元年11月17日 首都圏増田会 会長 細野 芳之助

第35回首都圏増田会総会 開催中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、今年
の首都圏増田会総会を中止とさせていただきます。

会員の皆さまにお会いできる機会がなくなる
のは残念ですが、皆さまの安全を十分に確保で
きない状況では開催できないと判断しましたの
で、ご理解の程よろしくお願いいたします。

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

「増田会だより」の表紙に載せる写真を募集
しています。増田会にふさわしく、増田に関する
郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの方が
おりましたら、是非提供をお願いします。

■提出先：幹事長 越後 英雄

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。
1口(名刺版)3,000円となります。希望される
方は、伝票の通信欄にその旨を記入いただき、
会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業、運営は会員の皆様の手元でござい
ますが、ここ数年会費の納入が遅れたり、未納の
会員の方がおります。健全会計維持のためにも、
納入はお早めをお願いいたします。なお、未納
の方には次回より案内状・便り等の送付はしな
いこととします。また、転居された方をご存じ
の方は、横手市まちづくり推進部増田地域課へ
お知らせください。

■連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館
173番地／電話0182-45-5510

◆会 費 年額2,000円

◆納入期限 令和2年10月9日(金)

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に
対するご意見などを自由に記入してください。